

## 特別研究活動報告書（2022年度）Ⅳ

新規事業開発，新規起業に向けた金融機関版  
「社会的プラットフォーム」の創造

吉野 忠男

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 研究活動報告
4. 主な発表論文等
5. 研究組織

## 1. 研究の目的

本研究は、金井（2012）が提唱する「社会的プラットフォーム」を研究基盤として地域金融機関との連携による新規事業・新規起業の創造について青森大学金井一頼学長をオブザーバーに迎え、金融機関現職の大阪シティ信用金庫 三浦英登江戸堀支店長，同本店営業部得意先課 手塚晃貴係長（共に本学経営学研究科2016年，2021年修了手塚氏は経営学研究科総代）を調査，分析，検討のメンバーにくわえ，本学経営学部吉野忠男を中心に，地域金融機関の新規事業，起業支援の現状の分析から今後の課題，とりわけ新規事業・新規起業の創造，開発の連携の枠組み「金融事業・起業開発プラットフォーム」について調査・分析・検討を行い，本学と大阪シティ信用金庫で融資，起業支援の組織体制構築を目指すものである。

「社会的プラットフォーム」は，「行政セクター」「産業セクター」「学セクター」「市民セクター」の各セクターから参加し，新たな事業や起業を創造する場とされる。金井（2012）は札幌市内で形成された「サッポロバレー」を分析対象として，「社会的プラットフォーム」の形成プロセスを明らかにした。一方，吉野（2015）は「社

会的プラットフォーム」の概念を背景に、「サッポロバレー」の「社会的プラットフォーム」形成プロセスには源流企業（従業員のスピノフや社内ベンチャーを惹起した企業）が不可欠であること、さらに「社会的プラットフォーム」は単独の一形態にとどまるのではなく段階的重層的に形成することを提示した。また、「社会的プラットフォーム」は企業のみならず公益社団法人などの機関においても学・学連携などを端緒にして「社会的プラットフォーム」に展開することを析出した（吉野2019）。

こうした金井（2012）吉野（2015, 2019）の研究を背景に、大阪シティ信用金庫の現職2名が本学大学院経営学研究科への入学を機会に、地域金融機関の現状と課題、新たな事業創造について調査、分析、検討を行い、修士論文を完成させた。三浦氏は、研究テーマを「地域金融機関の競争戦略－信用金庫の持続的成長に向けて－」、手塚氏は研究テーマを「地域金融機関における存在意義と新たな商品戦略－金融機関の変遷と証券化商品の現状と課題－」として修士論文を作成した。ともに地域金融機関である信用金庫の現状と課題を踏まえ、取引先との新たな関係性の構築や金融派生商品（デリバティブ商品）の再検証から新商品の開発、新事業の創造などを検討している。手塚氏の論文をさらに深耕させた吉野との共著を大経大論集第73巻第3号、第4号、第5号に掲載した。また、論文の作成過程で、信用金庫の新事業創造とともに、起業家を支援する枠組みについて議論する機会があった。金融機関の取引先の廃業は地域の衰退とともに市場の縮小あるいは後継者不足から年々増加の傾向にある。新規取引先の獲得は金融機関の激烈な競合関係から困難であり、また金融機関の経験上、新規起業の支援で成果を上げているケースは多くはない。こうしたことから金融機関、とりわけ地域金融機関の新規取引先の獲得は重要な命題となっている。地域金融機関が新規の起業にどのような関係性を見出し、起業家を育成できるかが問われているのである。

本研究は、研究基盤である「社会的プラットフォーム」に関して、その提唱者である金井氏を招聘し、実務家でありながら地域金融機関への問題意識を論文上で検証した現職の信金職員を検討メンバーにくわえ、単なる理論研究ではない実践的かつ確実な成果を導くものである。この成果は、地域金融機関の本質的な課題、問題解決に向けた内容である。同時に、金融機関が新規事業や新規起業の創造の機会、枠組みを作るとは全金融機関に示唆を与えるとともに、新たな起業における金融機関スキームを提示できるものである。その意味でも、検討のプロセスは公表の機

会（関連学会，本学内の報告会）を活かし，地域金融機関の現状の課題，問題を共有したいと考えている。これは金融機関，とりわけ地方銀行や信用金庫などの地域金融機関への就職を目指す本学学生に大きな刺激を与えるものであり，就職の検討機会を提供するものである。

## 2. 研究の方法

本研究は，概念的な枠組みは一定の研究成果が示されている中で，地域金融機関，信用金庫の実態や新規事業に向けた取り組みの概要が確認できないことを考慮し，以下の手順で調査，分析，成果物の公表，研究成果の具体化に向けて取り組みたいと考えている。

### （1）地域金融機関の実態調査

金融機関の現状に関しては，関連書籍の精査や関係官庁の公表データの分析を行い，新事業創造に向けた課題事項の整理を行なう。合わせて関係省庁への聞き取り調査を行い，監督官庁の現状認識，地域金融機関への期待，新事業創造の可能性について確認を行う。また，大阪シティ信用金庫の職員を対象にアンケート調査を実施したいと考えている。現場の職員が現行の金融サービスをどのように理解しているのか，課題の有無，新商品の開発，この延長上にあるベンチャービジネスへの融資，評価方法，組織改編などの調査を行う。並行して，職員を対象にした聞き取り調査を実施する。

実施期間：2023年5月～7月実施予定

### （2）地域金融機関版「社会的プラットフォーム」の形成議論

スタートアップにおいて要諦となるのは，第一に事業内容の精緻な検討であり，第二に，資金の獲得である。事業内容の検討は，アイデア程度であっても様々な交流，学習の機会により事業の具体化プロセスを歩むことができる。その意味でも社会的プラットフォームは，そうした交流，学習の機会であり事業内容の高度化が期待される。

本共同研究は，大阪シティ信用金庫をはじめ，行政担当者をメンバーに加え，定

期的な検討の場を創設する。

### (3) 関係者へのインタビュー調査

起業における資金の獲得は、事業のスタートアップ、そして事業の成長に不可欠である。こうした一連のプロセスにおいて大きな役割を果たすのは金融機関の代表格である銀行、あるいはベンチャーキャピタルである。また、起業のアドバイスやサポートにおいてはコンサル系企業が重要な存在となる。こうした関係企業や関係者へのインタビュー調査を実施する。

### (4) 起業を希望する学生を対象にしたセミナーの開催

本学の学生は、祖父の事業の承継、あるいは自らの問題意識を解決する手段として起業を志向する傾向があり、その数も決して少ないものではない。その中で、現実的な起業問題として資金の獲得は重要なテーマとなる。大阪シティ信用金庫の融資担当者を講師に迎え、起業における課題として資金の獲得に関し金融機関側からみた留意すべき点、準備すべき点、さらに事業計画策定上の基本事項を解説するセミナーを開催する。本セミナーを通じて、学生の起業に向けた問題意識の確認と起業の決意を把握する。

## 3. 研究活動報告

### ■インタビュー調査及びセミナー等の開催

#### ①青森調査

2022年4月18日(月)、に青森大学を訪問(担当:吉野,手塚)し、本研究オブザーバー青森大学金井一頼学長から「社会的プラットフォーム」の基本を解説いただき、質疑応答を行った。「社会的プラットフォーム」は「行政セクター」「産業セクター」「学セクター」「市民セクター」から参加する人物が重要であり、その人物が事業創造、起業創造にどの程度コミットメントし取り組むことができるかが重要なポイントである。単に頭数を合わせるようなセクター参加者だけになると何ら成果を生まないとの説明は刺激的な内容であった。本研究は社会的プラットフォームを基幹的な議論

に据えても、それを形成することに尽力しただけでは成果を得ることはできないし、セクターメンバーの納得感も得られなくなり、やがて社会的プラットフォームが形骸化する危険性を再認識することができた。また、金井氏の主張では、社会的プラットフォームは規模の大小ではなくセクターメンバーの姿勢であり、目指すべきものの内容がその存在を左右するとのことである。今後の議論において、セクターメンバーの選出においても重要な指針を得ることができた。

くわえて本研究，調査活動について多くのアドバイスを頂戴した。

#### ②共同研究のキックオフ・ミーティング

6月24日（金），山本俊一郎学長，金井一頼青森大学学長，福岡寛副理事長（大阪シティ信用金庫），三浦英登支店長（同江戸堀支店），手塚晃貴（同本店営業部），吉野忠男参加による共同研究参画機関のキックオフ・ミーティングを開催した。共同研究の開始と確認とともに，大阪シティ信用金庫内の円滑な活動推進に資することができた。

#### ③第1回共同研究会議

キックオフ・ミーティング開催の同日，金井一頼学長を交え，共同研究メンバーを加えた第1回共同研究会議を実施した。議題として，研究スケジュールの確認と情報収集先の確認，インタビュー内容の精査をおこなった。金融機関の現状報告と起業資金に関する証券化商品の課題と可能性はすでに調査分析の取りまとめを行っている大阪シティ信用金庫側から詳細な報告があり，インタビュー調査において確認すべき事項の整理をおこなった。

#### ④東京出張（関係先インタビュー）

実際のベンチャー企業への融資経験がありベンチャーの実態と融資にともなう課題を確認するとともに，ベンチャー企業にアドバイスや支援をおこなっている企業の担当者にインタビューを実施した。

株式会社オートシステム社長小泉明朗氏（前 SMBC ベンチャーキャピタル株式会社副社長，元三井住友銀行執行役員）は，ベンチャーキャピタルへの融資実績と課題，それに関する具体的な融資事例を解説いただいた。また，起業に関する金融機関の

融資の枠組みとして証券化商品は重要なテーマであるとの指摘があり、とりわけ事業承継においては信用金庫が重要な立場にあるとの認識を示された。多くの企業融資や事案を手掛けた経験からの確かなアドバイス、提言をいただいた。さらに関係先の機関名や人物の紹介もあり、今後の調査活動に有益なインタビューとなった。

コンサルティング事業を手掛けるジャフコグループ株式会社M氏からは、ベンチャー支援の実績と事例について解説していただき、その上で、本共同研究の目的と今後の取り組み内容を説明した。起業に向けた学生へのアドバイスや事例報告の機会があれば積極的に参加したいとの意向確認ができた。

他に、株式会社 ALL STARS K氏、Ideal node O氏、株式会社 RISE U氏と名刺、意見交換を行った。

#### ⑤証券化商品に関するプレインタビュー

12月、海外展開において先駆的事例を有する金融機関へのプレインタビューをおこなった。海外進出を志向する中小企業に対し資金的な支援を展開する中で、証券化商品は中小企業側にとって資金の獲得にメリットがある一方で、投資側のリスク分散において有効性が認められることは実績があるとのことである。中小企業の資金需要の実態と投資側の目的、そして金融機関の役割を再認識することができた。本共同研究の実態的な課題を整理し、改めてインタビューをおこないたい。

#### ⑥豊中市との意見交換

12月、豊中市は行政の立場から地域活性や地域の起業支援に新たな枠組みを検討している。本共同研究の社会的プラットフォームの構築は豊中市の検討の方向に合致する部分もみられることから、今後、継続的に会議を開催し意見交換を行うことを確認した。また、社会的プラットフォームの行政セクターのメンバーとして参画を要請し、豊中市のテーマとともに検討議題として議論していくこととした。

### 4. 主な発表論文等

手塚晃貴・吉野忠男（2022）『地域金融機関における存在意義と新たな商品戦略（5）－金融機関の変遷と証券化商品の現状と課題－』大阪経大論集 第73巻第1号

吉野忠男（2022）『組織間関係における事業形成プロセスと成果（1）』大阪経大論集第73巻第2号

吉野忠男（2022）『組織間関係における事業形成プロセスと成果（2）』大阪経大論集第73巻第3号

吉野忠男（2022）『組織間関係における事業形成プロセスと成果（3）』大阪経大論集第73巻第4号

吉野忠男（2023）『組織間関係における事業形成プロセスと成果（4）』大阪経大論集第73巻第5号

## 学会報告

吉野忠男 実践経営学会 第65回全国大会 報告テーマ『起業機会の認識と事業創造プロセス—シニア起業家の起業事例—』2022年8月28日 八戸学院大学

## 5. 研究組織

| 役割           | 氏名   | 所属・役職                    | 担当内容                                                         |
|--------------|------|--------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 研究代表<br>調査担当 | 吉野忠男 | 大阪経済大学経営学部<br>教授         | 本共同研究の代表，とりまとめ，予算管理，会場<br>設定，計画進行役，聞き取り調査，アンケート集計，<br>報告書制作等 |
| 研究・調査担当      | 三浦英登 | 大阪シティ信用金庫<br>江戸堀支店支店長    | 大阪シティ信用金庫 交渉窓口<br>聞き取り調査，アンケート集計，報告書制作，報<br>告会報告者等           |
| 研究・調査担当      | 手塚晃貴 | 大阪シティ信用金庫本<br>店営業部得意先課係長 | 聞き取り調査，アンケート集計，報告書制作，報<br>告会報告者等                             |
| オブザーバー       | 金井一頼 | 青森大学学長，<br>大阪市立大学大学院教授   | 概念的議論，枠組みの提示，問題の所在，論点，<br>議論の方向性のアドバイス等                      |